

# 道連ニュース

2009年5月号 No.35

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

道連  
報告

## 第53回通常総会の議案を決定しました

### 2008年度第4回理事会開催

2008年度第4回理事会を5月14日に開催し、第53回通常総会（6月11日午後開催）に提案する議案を審議し、決定しました。

通常総会には、予定していた6つの議案《2008年度活動報告、同年度決算報告（損失処理案及び監査報告）、2009年度活動計画及び予算案、役員を選任、役員報酬案、議案議決効力発生について》のほか、「総会運営規約の1部改定」議案を追加することを決定し

ました。（定款との食い違いの是正）

激しい経済・社会変化の中で、組合員の暮らしと経営を発展させる対策について検討する総会となります。また、昨年度の総会で定款を改正して初めての総会で「役員を選任」議案を提案します。

現在、代議員登録をお願いしていますがオブザーバーも含め多くの皆様のご出席を期待しています。

### 北海道・東北地連報告

## 第1回県連実務責任者・組織委員合同会議

日本生協連の北海道・東北地連の連絡組織「県連実務責任者会議」（1道6県）と専門委員会の組織委員会との合同会議の第1回が、5月12・13日に仙台で開催されました。この会議は昨年度から合同の形をとって、年間4回開催されます。

今回の会議では日本生協連から「消費者庁」関連法案の参議院審議の動向が報告され、また、地方消費者行政への財政支援策（地方消費者行政活性化交付金）を契機に地方消費者行政の施策強化を要望することが提案され、各県の状況を交流しました。

また、2010年4月開催の「核不拡散（NPT）条約再検討会議」に被爆者及び生協代表を送る募金を今年9月から全国で行うことも発表されました。

一方、地連から今年度ユニセフ募金の取組み計画、「組合員活動交流会」計画（9月・岩手県）、「地球温暖化防止自主交流会」（6月・札幌）、「ガバナンス強化交流会」（6月・仙台）、「重大食品リスク対応研究会」（7月・仙台）が提案され協議しました。

当会は7月理事会でNPT再検討会議に向けた募金、ユニセフ募金等について協議を行います。

## フォーラム「もっと元気に！北海道農業」の開催案内

主催：北海道生協連・コープさっぽろ

食の安全・安定供給が求められる中、北海道農業に対する期待が高まっています。生産の現場である「農」と消費の現場である「食」をつなげる生協として「元気な北海道農業」の実現のために生産者・行政・消費者がそれぞれどのように行動したらいいのかフォーラムを開催し、今後の活動に繋げていきたいと考え、以下の内容で企画しました。多数のご参加をお待ちしています。

●日時 2009年7月7日(火) 10:00～12:30 ●会場 札幌エルプラザ3Fホール「札幌市北区北8条西3丁目」

●内容 基調講演「北海道の元気は農業から」 麻田 信二氏（酪農学園理事長）

パネルディスカッション

●コーディネーター・飯 澤 理一郎氏（北海道大学大学院教授）

●パネリスト  
・駒 谷 信 幸氏（長沼町駒谷農場）  
・余 湖 智氏（恵庭市余湖農園）  
・佐久間 良 博氏（江別製粉常務取締役）  
・東 修 二氏（北海道農政部長）  
・前 濱 喜代美氏（コープさっぽろ理事）

## 23年目の「4.26チェルノブイリデー」が行われました！

チェルノブイリ原発事故から23年目を迎えた4月26日、原発事故の恐ろしさを風化させないようにと札幌市教育文化会館で市民集会を行い、約200名が参加しました。主催は、4.26チェルノブイリデー市民集会実行委員会が行い、当生協も他の市民団体と共に参加しています。

集会では1999年、JCO東海村事業所で起きた臨海事故の際、被ばくした作業員の主治医として治療に当たった前川和彦さんが「わが国の緊急被ばくの医療体制について」と題して講演を行いました。講演のまとめとして、「国は報告書をもとに医療体制作りを進め、初期・二次・三次被ばく医療機関が位置付けられ緊急事態発生時に備えた医療の組織体制ができた。しかし、現在の医療体制が昨今の厳しい医療事情と相俟って、とりわけ初期被ばく治療にあたる地方の医療機関が深刻な医師不足という事態に陥っている」との報告がありました。また、緊急被ばく医療体制は整備されたが、原子力施設立地地域以外にはその体制が存在しないとの問題点も指摘されました。

集会ではその後、危険なプルサーマル計画の問題点や、最近の市民運動について報告があり、その後札幌大通りをデモ行進し、脱原発の意志を強く訴えました。



◀二度と同じ過ちは犯してはいけないとアピールする船橋理事長

集会後、札幌大通りを行進し市民に呼びかけました  
▼



## 全労済北海道本部 新会館落成祝賀会が行われました

会館の3つの特徴～災害に強い構造、環境への配慮、地域に親しまれる施設

全労済北海道会館の落成祝賀会が、各界の関係者等総勢170名の参加のもと5月20日(水)盛会に行われました。

開会に先立ち、主催者を代表して全労済北海道本部 峯後理事長がご挨拶を述べられ、次に、連合北海道の高柳会長をはじめ、小澤札幌副市長など来賓代表者のご挨拶が続きました。この後、建設業者への感謝状・謝礼進呈、祝賀会費用の一部を充てた落成記念助成金の贈呈と続き、渡部労福協理事長の祝杯の音頭を契機

とした祝宴は、終始和やかな交流・ご歓談の場となりました。

すでに5月7日より、業務を開始している全労済北海道会館の建設は、「建築後30年経過した旧会館における建物耐久性の著しい低下の解消」と「札幌市内に点在している事務所の集約化」を主目的に進められました。

免震構造の採用等災害に強い構造を備え、地域における防災・避難拠点としての施設運用を図り、また、オール電化の採用による環境配慮、敷地内のバリアフリー化・緑化により、地域住民に親しまれる施設を追求し建設されています。まさに「人・街・環境にやさしい、安心・安全な施設」として、保障の生協である全労済が、北海道において更なる組合員サービスの向上を図るための拠点としての役割が期待されます。

北海道生協連さんの移転入居を契機として全労済北海道本部との連携をより深めることで、相互扶助の精神に基づく共済事業の発展を共に支えていきたいと考えています。



▲落成を祝いご来賓の方々との鏡開き

「全労済北海道会館」建設外観 ▶



## 落成記念助成金 助成先一覧(敬省略、順不同)

- 日本労働組合総連合会 北海道連合会
- 社会福祉法人「北海道いのちの電話」
- NPO法人「チャイルドラインさっぽろ」
- 菊水3条4丁目町内会